

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦1	準天頂衛星を活用した精密時間デバイスに関する国際標準化	日本の準天頂衛星(みちびき)を活用する衛星測位を用いた、位置情報の決定等に必要な精密時間の精度(レベル分け)等について国際標準化を行う。	2年	5,540,637円(上限)／初年度
募戦2	宇宙用液浸冷却システムに関する国際標準化	高発熱を伴う宇宙機器の排熱を実現するため、液浸冷却システムの設計・組立・試験方法について国際標準化を行う。	3年	15,672,694円(上限)／初年度
募戦3	マニピュレーションシステムのアーキテクチャを規定するインターフェースに関する国際標準化	ロボットメーカーとSIerによる共同システム開発を円滑にするため、ソフトウェアアーキテクチャ及びソフトウェアインターフェースについて国際標準化を行う。	3年	9,584,000円(上限)／初年度
募戦4	再生医療及びその応用分野に関する国際標準化	再生医療分野の産業化を促すため、細胞及び細胞外小胞の分析や生体模倣システムの組織モデルの連結について国際標準化を行う。	3年	16,050,001円(上限)／初年度
募戦5	センサ埋め込み型インプラントによる生体モニタリングに関する国際標準化	実臨床データを活用した医療の高度化を実現するため、センサ埋め込み型インプラントによる生体モニタリング結果の有効性評価に必要な情報の種類や精度評価手法について国際標準化を行う。	3年	6,900,000円(上限)／初年度
募戦6	放射線防護等に関する国際標準化	原子力や放射線を安全に利用する環境を整備するため、緊急時のγ線分析のための試料前処理法等について国際標準化を行う。	3年	5,700,000円(上限)／初年度
募戦7	歯科分野における接着成分含有ポリマー系合着材料に関する国際標準化	失われた歯の機能や美しさを回復するための治療法である歯科補綴(ほてつ)について、歯科補綴製品の市場拡大を踏まえた高品質品の差別化に向けて、歯科補綴用の接着成分含有ポリマー系合着材料について国際標準化を行う。	3年	1,630,000円(上限)／初年度
募戦8	機械的品質係数Qmの測定方法に関する国際標準化	圧電材料がセラミックスから単結晶材料に多様化していることを踏まえ、圧電材料の共振周波数における機械的な振動の鋭さを表す機械的品質係数Qmについて、より汎用性のある共振法に基づく測定方法及び計算方法の国際標準化を行う。	3年	8,962,259円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦9	LIT式レーザー周期加熱法によるセラミックス放熱基板の熱物性評価手法に関する国際標準化	パワー半導体用放熱基盤の早期性能評価等を可能とするため、セラミックス放熱基板の熱物性を非破壊・高精度に評価する手法であるロックインサーモグラフィ(LIT)式レーザー周期加熱法について国際標準化を行う。	3年	12,603,474円(上限)／初年度
募戦10	構造タンパク質樹脂に関する国際標準化	従来の動物由来原料からの代替材料となり得る構造タンパク質樹脂の新市場創造・展開に伴い、環境整備を進めることを目的とし、構造タンパク質樹脂に関する名称・定義の国際標準化を行う。	3年	38,082,817円(上限)／初年度
募戦11	交通量・振動のリアルタイムな測定・分析を高度化する分布型音響センサ(DAS)に関する国際標準化	安全で便利な交通環境を確保するためには、道路上の移動体(車、歩行者など)を的確に検知することが重要である。分布型音響センサ(DAS)は非常に高感度で、侵入検知や油井モニタリングなどの分野を中心にアプリケーションが拡大している技術であり、本テーマでは国土に遍く敷設されている通信用光ファイバの空き芯を活用し、安全で便利な道路管理のために、DAS計測器の有する空間分解能、セルフノイズ、解析時間などの試験方法を定義し、国際標準化を行う。	3年	6,980,000円(上限)／初年度
募戦12	生活者目線重視型スマートシティ評価の枠組みに関する国際標準化	スマートシティにおいては、個人の権利を侵害せず、生活者の住みやすさを重視した都市設計および都市開発が求められている。本テーマでは、日本企業が世界のスマートシティ市場を獲得しやすい環境を整備するため、生活者目線の評価項目をスマートシティ評価の指標として組み込んだ国際標準化を行う。	3年	14,500,000円(上限)／初年度
募戦13	Virtual Humanに関する国際標準化	サイバーフィジカル空間におけるアバター活用が進展する中、より写実的で高精細なアバターである Virtual Human の普及に向けては、その品質や機能に関する標準化の重要性が高まっている。本テーマでは、当該分野において日本の優れたコンテンツ力と技術力を国際市場で確実に発揮するため、Virtual Human の国際標準化を行う。	3年	15,640,240円(上限)／初年度
募戦会旅1	TC260諸規格に関する標準化活動	ISO/TC260における国際会議へのエキスパート等の派遣を行い、TC260における議論の動向を把握し、他国提案への対応等を実施する。	3年	7,648,366円(上限)／初年度
募戦会旅2	エネルギーマネジメント・省エネルギー量に関する標準化活動	ISO/TC301における、エネルギーマネジメントシステムに関する議論について、国内委員会での意見集約および合意形成、並びに専門家派遣による規格開発を進める。	3年	2,340,000円(上限)／初年度
募戦会旅3	宇宙システムに関する標準化活動	ISO/TC20/SC14(宇宙システム及び運用)において、WG1コンビーナ、WG6コンビーナ等を国際会議に派遣し会議の運営を行うとともに、日本提案の国際標準化の活動を推進する。	3年	2,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅4	エンドエフェクタインターフェースの国際標準化	ロングテール市場へのロボット普及のため、サービスロボットのエンドエフェクタについて、エンドエフェクタの把持部、アームとの接続部、コントローラとの信号など外部との界面(エンドエフェクタインターフェース)について国際標準化を行う。	3年	7,451,046円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦会旅5	ISO/TC150及びISO/TC150/SC7に関する持続的・包括的標準化活動	ISO/TC150、ISO/TC150/SC7総会へ要職者を派遣し、日本提案で開発中の国際規格をはじめ、国際規格開発の初期段階から各国と規格内容の調整や討議を行って国際規格に日本の意見を的確に反映させる活動を行う。	3年	4,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅6	バイオメテイクスに関する標準化活動	2025年度、ISO/TC 266(バイオメテイクス)に生物模倣型動的機能表面の国際標準化を提案し、新たな作業部会(WG5)を立ち上げ、日本からコンビーナを輩出した。2026年度にはISO/TC 266国際会議の日本開催を行うとともに、作業原案のステージアップを図り、2027年度の国際規格発行を進める。	3年	1,950,000円(上限)／初年度
募戦会旅7	界面活性剤に関する標準化活動	ISO/TC91の国内委員会を設置し、会議への参加やエキスパート派遣により、TC91における議論の動向を把握して必要な提案を行うとともに、他国提案への対応等を実施する。	3年	2,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅8	防護服に関する国際標準化活動	ISO/TC94/SC13(防護服)において、防護服に関する国際規格の改正及び制定などに対応し、国内外の製品の安全性向上や国内メーカーの産業競争力強化を目的に活動を行う。	3年	2,500,000円(上限)／初年度
募戦会旅9	ISO/TC106(歯科)に関する標準化活動	ISO/TC106(歯科)及び各SCにおいて、歯科に関する国際規格の改正及び制定などに対応し、国内外の製品の安全性向上や国内メーカーの産業競争力強化を目的に活動を行う。	3年	6,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅10	ヘッドマウントディスプレイの人間工学規格に関する国際標準化活動	ヘッドマウントディスプレイ(HMD)の人間工学に関する国際標準化活動を推進し安全性や快適性、ユーザーエクスペリエンスの向上を図るため、HMDの仕様や利用状況に基づく人間工学的要求事項の規格化及び将来の技術革新に対する人間工学的影響の評価方法の規格化について、人間工学データの集積、国際提案や国内外の審議対応等を行う。	3年	1,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅11	医用波形記述規格に関する国際標準化	医用波形記述規格ISO 22077シリーズのSR投票(見直し投票)を機にISへの移行を行うため、ISO/TC215国際会議の審議に参加し意見調整等を行い、規格の見直し検討を行う。さらに、医療機器/医療情報分野の国際的標準化動向も監視するため、HL7、IEEEなどの国際会議に出席し情報収集を行う。	3年	3,400,001円(上限)／初年度
募戦会旅12	臨床検査及び体外診断検査システムにおける次世代バイオマーカー検査ならびに法科学分野における生体試料を用いる検査の標準化	核酸に対する多項目遺伝子検査、および、病原体サーベイランスのための下水の検査前プロセスに関する国際標準化を目指す。その標準化活動を進めていくため、国際会議への参加、各国との協議・意見調整、国内委員会での議論を行う。法科学分野のISO18385の改訂にてDNA freeの方法にプラズマ滅菌が加えられるよう国際会議で議論を行う。	3年	1,800,000円(上限)／初年度
募戦会旅13	ISO/TC206(ファインセラミックス)に関する持続的・包括的標準化活動	ISO/TC206関連の国際会議に国内のエキスパートを派遣し、国際規格開発の初期段階から各国と規格内容の調整や討議を行う。また、国内委員会を組織し、日本提案規格開発の方向性等について議論する。	3年	5,281,061円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦会旅14	TC147/SC3(放射能測定)に関する標準化活動	ISO規格の改訂を行っているトリチウム(ISO 9698)及びラドン222(ISO 13164-3)の分析試験方法について、国内エキスパートをISO国際会議(ISO/TC147/SC3)などに派遣し、原案修正などの対応を行い国際規格の発行を目指す。また、「誘導結合プラズマ質量分析法(ICP-MS)によるヨウ素-129の測定技術」について、ISO/TC147/SC3/WG14において国際標準化に取り組む。	3年	2,000,000円(上限)／初年度
募戦会旅15	地盤汚染のスクリーニングに関する標準化活動	日本が議長職等を務めているISO/TC 190/SC 3/WG 10およびその上級のISO/TC 190の会議に委員を派遣し、地盤汚染のスクリーニングに関する日本提案の規格制定、現行規格の改正等の国際標準化に取り組む。	3年	3,680,820円(上限)／初年度
募戦会旅16	表面波探査手法に関する標準化活動	ISO/TC182 WG9の国際会議に委員を派遣し、参加国との協議・意見調整、国内委員会での議論を行い、表面波探査手法に係る国際標準化に取り組む。	2年	4,204,286円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省1	Manufacturing Data Space に関する国際標準化	異業種間データ連携(Manufacturing Data Space)はドイツを中心とする欧州が先行して議論を進める中、日本の製造業が不利とならないよう、戦略的な標準化活動が求められている。本事業では、国内外で進む標準化活動の調査や日本としての協調領域の整理等を通じて、日本の製造業にとって有利な要件を反映した SRD(System Reference Deliverable)を開発する。	2年	6,111,501円(上限)／初年度
募省2	燃料電池モジュール及びその関連技術に関する国際標準化	固体高分子型燃料電池(FC)モジュールの耐久性/寿命推定及び比較を可能とすることで、FC モジュールの多用途展開を加速させ、「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」及び「水素基本戦略」が実現されるよう、FC モジュールの寿命の定義、耐久性/寿命の評価基準(条件及び指標)の国際標準化を行う。 ※なお、本国際標準化の対象とする多用途展開先の機器は、IECの所掌範囲に属する機器とし、自動車、トラック、バスなどの公道車両は対象外とする。	3年	26,000,000円(上限)／初年度
募省3	低圧リソースのデマンドレスポンス活用に関する国際標準化	デマンドレスポンスとは、電力需給の状況に応じて、需要家が電力使用量を調整する仕組みを指す。このうち低圧リソースとは、住宅や小規模商業施設に接続されるリソース(家庭用エアコン、給湯器、冷蔵庫、照明、EV充電器、蓄電池、太陽光発電など)であり、これをデマンドレスポンスに活用できれば、一つ一つの出力は小さいが、数百万～数千万台を統合すると大規模電源に匹敵する調整力を持つ可能性がある。本事業では、低圧リソースによるデマンドレスポンスを普及させるためアーキテクチャの国際標準を開発する。	3年	9,000,000円(上限)／初年度
募省4	レーザー周期加熱法による革新的半導体評価技術に関する国際標準化	ワイヤボンディングやインターポーザにおけるビアやスルーホールなどの接合部位において、対象部位の熱時定数を用いることで非破壊非接触で接合面の状況を判別する評価方法の国際標準を開発する。	3年	20,000,000円(上限)／初年度
募省5	電力需給及び系統運用の最適化に資するデータセンター連携スキームに関する国際標準化	近年AI進化に伴うデータセンター(DC)需要の急速な高まりに比例し、大量の電力が必要になっている。他方、カーボンニュートラルに向けて、従来の火力発電所は段階的に廃止・停止されており、今後は再生可能エネルギーが主力電源化する。こうした中、急増する電力需要に対し、発電側だけで柔軟に対応することは困難になってきており、電力を使う側、つまり需要側でも調整が必要になってきている。本事業では、DC産業等の大規模需要において、利用形態に応じた電力消費推計モデルを構築・分析し、体系的に分類するとともに、その分類区分に応じた系統連系上の考慮要件の国際標準を開発する。	3年	9,000,000円(上限)／初年度
募省6	半導体パッケージングのカーボンフットプリント算出に関する国際標準化	ウェーハ上に製造された半導体チップを切り分け、配線・マウント・配線・封止・検査などの工程を経て製品として出荷されるまでパッケージング工程における半導体製品のカーボンフットプリント(CFP)を算出方法の国際標準を開発する。	3年	25,000,000円(上限)／初年度
募省7	AIエージェント及びそれを包含するAIガバナンスフレームワークに関する国際標準化	AIエージェントに関して、提供される製品を評価可能とする製品標準、および利用者向けカスタマイズとして行う学習など利用時のプロセスを規定するプロセスの国際標準を開発する。 AIガバナンスフレームワークでは、異なるAIガバナンスの下にあるAIシステム群が統合的に運用できるよう、相異なるAIガバナンスについて常に共通となる部分と異なっても良い部分の二つを特定し、その理解の下にガバナンスを構築、実装し、運用するためのフレームワークの国際標準を開発する。	3年	32,300,000円(上限)／初年度
募省8	浮体式洋上風車に関する国際標準化	浮体式洋上風力の浮体システムの最適な設計規準、浮体システムの大量／高速生産技術、大水深における係留・アンカー施工技術、大水深に対応する送電技術、及び遠洋における風況観測手法などに関わる国際標準を開発する。	3年	9,900,000円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省9	水素ガスセンサに応用されるMEMS熱源評価法に関する国際標準化	今後ますますニーズが高まると考えられている水素ガスセンサにおいて、MEMS熱源を応用した物理モデルの検討、原理検証、実証等により、高信頼性の評価手法の確立およびその国際標準を開発する。	3年	17,500,000円(上限)／初年度
募省10	ペロブスカイト太陽電池の評価試験法に関する国際標準化	再生可能エネルギー源の一つであるペロブスカイト太陽電池の普及拡大には、高品質且つ高性能な製品が適正に市場で評価される必要があるところ、多様な構造・設置形態を持つペロブスカイト太陽電池の製品性能を正しく評価するため、既存の太陽電池の規格で規定されている評価項目の見直しを行うとともに、新たな評価法の国際標準を開発する。	3年	14,991,416円(上限)／初年度
募省調1	小電力非防爆電気機器の危険区域での使用ルールに関する国際標準化調査	化学プラント等の「危険区域(可燃性ガスが高濃度になるおそれのある場所)」では、国際標準や各国の法律で防爆構造をもった電気機器の使用が定められている。しかし最新のIoT機器や情報機器は非防爆構造であるため活用することができない。本事業では実験及び文献資料によって現行ルール(IEC60079-11)の緩和可能性を調査し、IEC/TC31等の海外カウンターパートへのヒアリングを実施する。	1年	5,159,000円(上限)／初年度
募省調2	MX Portに関する国際標準化調査	データスペースに関してはInternational Manufacturing-X(IMX)が提唱するMX-Portなど欧州中心に議論が進んでいる。今後の国際標準化において日本が不利にならないように、MX Portの実装時にユーザーおよびデータスペース側で必要な対応事項の特定や、Factory-Xのユースケース等についての調査を行い、日本における取り得るアクションの整理を行う。	1年	9,075,000円(上限)／初年度